

前回（6月29日）にいただいた御意見の例

1. ITの利活用の広がりへの対応について

- ・ ITが浸透すると、産業に限らず社会を守るためにも、ほとんど全ての人々がセキュリティの最低限の知識を身に付けることが必要になる。

2. セキュリティ人材の需要について

- ・ 「人材を育成してもユーザー企業に活躍の場がない」「ユーザー企業ではセキュリティ人材のキャリアパスの整備が遅れている」といった声がある。人材の活躍の場、すなわち需要側のミスマッチが課題。

3. 各人材層の明確化について

- ・ 各施策のターゲットがどこまでなのか、ある程度明確にすべきではないか。
- ・ 人によって同じ言葉を異なる意味で使っていることがある。例えば、「ハイブリッド人材」は、セキュリティ担当者が営業や製造ラインの業務も理解できるようにするのか、就労者一般がセキュリティを理解できるようにするのかで意味が全く異なる。言葉の意味の整理が必要。

4. セキュリティ以外の基礎的知識の重要性について

- ・ 30年～40年に亘って活躍できる人材を考えた場合、表面的にはセキュリティの技術は大きく変化しているが、コンピュータの原理や、OSや言語の基礎がわかっているならば、理解することはそう難しいことではない。
- ・ 教育側において、組織の役割や目的の理解を含め、社会人基礎力のように幅広いスキルの部分が手薄になっていると感じている。

5. その他

- ・ 高専はほとんどの都道府県に設置されているので、人材の裾野を広げる観点では、地域との連携ができればうまく活用できる可能性がある。
- ・ 「実践力の高いセキュリティ人材」は、高校や大学の教育では難しい。企業で行うこと、高校や大学で行うことを分けて議論すべきではないか。